

I 高齢者教育

高齢者と ICT との意外な関係

東峰村教育委員会 主任主事 和田 勲

1、事業名

東峰村元気プロジェクト事業<ITによる地域活性化事業>

2、事業の目的

情報技術を活用して地域を活性化する上で最も大切なリーダー（プロデューサー）を育成し、地域づくりに感心のある住民のコミュニティ形成を支援することを目的とする。

3、実施に至る経緯

東峰村でITの取組みが大きく動き出したのは、平成18年3月麻生福岡県知事が移動知事室で東峰村を訪れた時、懇談会に参加した村民がブロードバンド環境がないことを直訴したことがきっかけとなりました。これは非常によいタイミングでした。なぜなら東峰村は福岡県で唯一ブロードバンド環境がない地域となっていたからです。この懇談会后、さっそく県の支援策として7月には慶応義塾大学国領教授率いる応援団が東峰村にやってきました。その後、準備期間を経て12月に東峰村IT活性化委員会が発足しました。画期的だったのは、ブロードバンド環境をどう整備するかというのではなく「ブロードバンド環境が整備されたらどう地域の活性化に活用していくか」が重要であるという方針が出されたことです。この方針を受け翌年の年明けから住民ディレクター講座、インターネット市民塾、鳳雛塾を大学の指導のもとに実施することになりました。

●住民ディレクター講座

「映像制作プロセスを通じた総合的な企画力の養成」

●インターネット市民塾

「いつでも、どこでも、誰でも講師、受講生になれる学びの共同体づくり」

●鳳雛（ほうすう）塾

「地域をテーマとする教材を活用したディスカッション教育による戦略的思考の涵養」

これらの取り組みは、いずれも発祥の地があって、すでに一定の成果を上げているものばかりです。この時点で、村としては、講座受講生をどう確保するかで頭が一杯でした。

■思った以上の評価は、村民が「主役」

受講者集めに多少の苦労もありましたが、予定された2回の講座が終わった頃には、参加者の認識も変わり始め、3月に実施した成果発表会は大成功のうちに終了しました。村長が、「私もやりたかった」と言えば、見に来ていた村民の方からも次々に「継続すべき取り組み」という賛辞をいただきました。評価を受けた理由にはいろいろな要素があったと思いますが、講座に参加した村民こそが主役になれる取り組みということが、うまく伝わったのではないかと思います。

ます。

■ITはおもちゃ？それとも救世主？

3月の発表会の勢いのまま4月にはインターネット市民塾の講座生が自分たちで「東峰そんみん塾」を立ち上げ活動を開始しました。（詳細はこちら <http://cat-cat.jp/sonminjuk/top.html>）

また6月には住民ディレクターの講座も再開。そんな中、福岡県で開催されることが決まっていた全国過疎問題シンポジウムの分科会を東峰村で開催しないかという話が持ち込まれました。村はこれまでの取り組みをこのシンポジウムを通じて同じ過疎に苦しむ仲間たちに伝える絶好の機会と捉え開催を承諾しました。テーマは、これまでの活動をありのまま見ていただくことと、本当にITは地域の活性化に役に立つのかという思いをそのままに「東峰村 IT 劇場ー ITはおもちゃ？それとも救世主？」に決定しました。住民ディレクター講座の卒業制作と位置づけ受講生自らがテーマに沿った3分の映像を企画・撮影・編集し発表することになりました。また、東峰そんみん塾はこれまでの活動をホームページにまとめ発表することになりました。

■全国過疎問題シンポジウム東峰村分科会

分科会は全国から100名ほどの参加があり、3月の発表会と同じように公開収録形式で行いました。コーディネーターは住民ディレクター講座の講師でこの取り組みの生みの親であるプリズムの岸本さん。司会、カメラマン、タイムキーパー、照明、音声などは講座生で行ないました。もちろん合間を縫って自らの発表も行いましたのでフル回転の忙しさです。覚えてた役割にまごつく場面もありましたが、観客の反応は上々で、やはり村民自身が生き生きと取り組んでいる姿に共感したのではないかと思います。



■SNS 5 時間ライブイベントの実施



インターネット動画発信システムを使い、住民によるIT活用の取組について、5時間にわたり生放送形式で紹介した。これは新に村内に設置した情報発信の拠点「リアルカフェ」のオープニングイベントとして実施。既に「バーチャルカフェ」であるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を導入しており、この2つを両論とした「東峰メディアカフェ」で村内の情報共有と対外的な情報発信を進めています。

事業の経過表

- 18年 3月 県知事が来村。村民がデジタルデバイドを直訴
- 7月 県の要請で慶應大学が来村し状況を視察

- 12月 ITによる活性化戦略研究会発足
- 19年2月 慶應大学による講座開始 (インターネット市民塾、住民D、鳳雛塾)
- 3月 発表会で村民の支持を得る
- 4月 市民塾改め「東峰そんみん塾」結成。
- 5月 MIT バーガー教授を招いての四元テレビ会議
(主催慶應大学他)に東峰村会場
- 10月 全国過疎問題シンポの分科会会場として事例発表
- 20年3月 ADSLのサービス開始(全村対象)「公設民営方式」
- 8月 地域SNS「トーホーMedia Cafe」開設
- 21年2月 リアルカフェ「東峰メディアカフェ」の設置 ライブ放送(WEB)の実施
- 6月 毎月2回定期放送(SNS)の実施(住民ディレクター)

4、事業の成果

- ・互いに知らなかった住民同士が共に学び合うコミュニティが形成された。
- ・「東峰村に住んでいながら意外と知らなかったこともある。」「村民間で交流が増え、挨拶を交わすだけだった人とも話をするようになった。」といった声からうかがえるように、村の生活や他の人に対して目が向くようになった。
- ・情報技術を活用したまちづくりに対する自主的な活動が生まれ、「自分たちで何とかしなければ」という機運が醸成されてきている。
- ・関係者が、行政に頼らず地域リーダーとして自覚を持ち、地域の問題に取り組みまた他地域と交流を行い絆を深め生活を豊かにし、みんなが元気になっていっているのではないかと思います。

5、今後の課題

IT利活用の取組が、まずは高齢者をはじめ村民を元気にすること、次いで村の経済を元気にすること、そしてこの取組が、日本各地の元気にもつながること。さらには世界に向けた情報発信までを視野に入れた展開を行っていくことを将来的な方向性として取り組む。



問い合わせ先

福岡県朝倉郡東峰村大字宝珠山 6425 電話：0946-72-2301
東峰村教育委員会 宝珠山公民館 主任主事 和田勲



Toho Media Cafe
<http://toho-sns.jp>